



鎮魂の祈り 日米合同慰霊祭



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は6月19日（土）、賤機山（静岡市）で行われた「第49回日米合同慰霊祭」に参列した。

この慰霊祭は、昭和20年6月の静岡空襲で犠牲になった約2000人の市民と、爆撃機同士の空中衝突で亡くなった米軍搭乗員23人を追悼するため、菅野医院院長の菅野寛也氏が主催となり昭和47年6月から始めたもので、今回が49回目となる。

コロナ禍により昨年に引き続き規模を縮小して行われたが、遺族や自衛隊に加え、昨年は参加が見送られた米軍からも、在日米軍横田基地（東京都福生市）の第374空輸航空団司令官アンドリュー・J・キャンベル大佐以下5人が参列した。

式典は参加者全員の黙祷から始まり菅野氏の挨拶、日米友好の樹への献水が行われ、米軍を代表しアンドリュー大佐が挨拶を行った。

続いて、自衛隊を代表し杉谷本部長が菅野氏の功勞に対し敬意と感謝を示し、「これまで両国の友情の絆を育んできた本慰霊祭の意義は非常に大きく、今後その絆の証となり続けることを確信致します」と挨拶した。

参加者全員による焼香の後、日本側、米側の慰霊碑にそれぞれ献花と献酒が行われ、米軍と航空自衛隊静浜基地（焼津市）のらっば手が鎮魂のらっばを吹奏し式典は終了した。

静岡地本は、これからも地域や関係部隊等と協力し、平和に繋がる活動を支援していく。

富士メカニック専門学校モーターショーで自衛隊の整備の仕事を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は6月19日（土）、プラサヴェルデ（沼津市）で開催された「富士メカニック専門学校モーターショー」において、富士駐屯地（御殿場市）の第105全般支援大隊とともに自衛隊の広報活動を実施した。

これは学校法人鈴木学園富士メカニック専門学校からの依頼で実施したもので、自衛隊や自動車販売店などが車両を展示し、それぞれの仕事や整備について説明するもの。

当日はあいにくの雨模様であったが、学生や家族連れなど約280組の来場者で賑わった。

自衛隊は室内ブースに陸上自衛隊の小型トラックと偵察用オートバイ、屋外ブースに中型トラックを展示。ブースを訪れた来場者は車両やバイクに乗ったり、隊員から自衛隊車両の特徴などを聞き、興味津々な様子で見入っていた。

また、希望する学生等に自衛隊の制度説明も行った。自衛官の採用制度や幅広い職種について解説するとともに、部隊の車両整備を担当している第105全般支援大隊の隊員が直接車両の説明や整備の大切さなどを分かりやすく説明した。

静岡地本は、一人でも多くの県民に自衛隊の活動を知ってもらうため今後も各種イベントに積極的に参加し、広報活動を行っていく。

合同企業説明会で予備自衛官制度を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は7月8日（木）、御殿場高原ホテル（御殿場市）で開催した「令和3年度静岡県任期制隊員合同企業説明会」において予備自衛官制度を紹介した。

予備自衛官とは、元自衛官や所定の教育訓練を修了した民間企業で働く社会人などが、それぞれの職業に従事しながら有事や災害発生時に招集に応じて自衛官として活動するもので、「予備自衛官」「即応予備自衛官」の2種類がある。

今回開催した合同企業説明会は、任期満了で自衛官を退官し再就職する隊員と、退職自衛官の雇用を希望する企業35社が参加しており、双方に予備自衛官制度について理解を深めてもらうと広報ブースを設置した。

ブースでは、即応予備自衛官の訓練や災害派遣活動における活躍を写した写真を展示し、広報動画などを紹介した。また、予備自衛官が訓練や任務に参加する際は雇用企業の協力が不可欠となるため、パンフレットなどを使用して企業側の協力内容について丁寧に説明すると、担当者には興味深く耳を傾けていた。

静岡地本は、今後も予備自衛官・即応予備自衛官の採用に向け、あらゆる場で予備自衛官制度の広報と協力依頼に努めていく。

